

花高同窓会会報



第117号

発行 平成31年2月28日

秋田県立花輪高等学校
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12

TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudosou/>

印刷 (株)大館印刷



アメージング・タイランドより

海外での生活について

青澤 直子 (38期)

私は現在、健康料理研究家としてより多くの人に健康になってもらいたいと、料理教室やセミナー、コラムの執筆などをしながら、バンコクで健康料理の店「サラッデー」を経営しています。また、野菜ソムリエとアスリートフードマイスターのバンコク地域校を担当し、主に日本人の奥様向けに資格を広めています。故郷に帰ることは少ないですが、タイ国

秋田県人会「露の会」の幹事をしていることもあり、いつも秋田を近く感じています。これまでも秋田フェアの手伝いでタイ人に秋田を紹介したり、秋田でタイ料理を紹介したりして、タイと日本、秋田をつなぐ一助になればと活動してきました。花輪高校を巣立って東京の大学を出て銀行で働き、それが今やバンコクに住んで食に関わる活動をしているなんて、人生って何があるかわからないものだとつくづく思います。

私がタイに渡ったのは二十一年前、銀行の駐在員としてでした。当時はネットも携帯も十分に普及していませんでしたし、タイがニュースになることも少なかったもので、辛い料理の国という程度の印象しかありませんでした。

いざバンコクに住んでみると、カルチャーショックの連続でした。日本で見えたこともない高級車が走っているかと思えば、一台のバイクに家族五人で乗っていたり、猛スピードでトゥクトゥクが走っていたり、はたまた象が歩いていたりと。朝早くから市場に人が集まり、お坊さんの托鉢姿を見ることがあります。夜はネオンがいつまでもきらめいていて、まさに二十四時間眠らない街でした。さらにニューヨーク以上ではないかと思う人種のつば、立派な国際都市でもありました。英語はもちろん、中国語や日本語、フランス語、イタリア語、スペイン語、さらにアフリカやアラブの聞いたことのない言葉があちこちで飛び交っています。百円でお腹いっぱい食べられる屋台もあれば、日本では食べたこともない世界中の食も集まっています。観光誘致で「アメージング・タイランド」というキャッチフレーズがありますが、まさにアメージングな毎日で飽きることがありません。タイは、「外国」欧米」だった私に自分の見聞の狭さ、世界の広さを教えてくれました。

人生も折り返し地点を過ぎました。

平成31年度 総会開催のご案内

- ・日時：2019年5月11日(土)
- ・場所：鹿角市花輪 鹿角パークホテル
 - ・決算、予算審議
 - ・役員改選
 - ・記念講演
- ・会費：4,000円(懇親会費)

Healthy & Happy Food
SALADee Co., Ltd.
491/14-15 Silom Plaza GF., Silom Road, Bangkok 10500 Thailand
Tel: 02-635-0350 Fax: 02-635-0351 Mail: info@saladee.asia
HP: www.saladee.asia FB: https://www.facebook.com/saladee.asia

Managing Directors
Naoko AOSAWA (KAWASHIMA)
青澤 直子
Tel: 081-836-6350
Mail(1): saladee.aosawa@gmail.com
Mail(2): aonao727@yahoo.co.jp
Blog: <http://koppunnaak.blog115.fc2.com>
FB: <https://www.facebook.com/naoko.aosawa>
Twitter & LINE: koppunnaak



たが、これまで在タイ日本人向けだった野菜のセミナーや料理教室をタイ人や外国人向けに開催できるように、今さらですがタイ語と英語を学び直しています。覚えが悪くて苦労していますが、多くの刺激をくれるタイに感謝です。

(八幡平出身)

母校を誇りに思つて

田中 雅 徳 (34期)

金足農業の昨夏の甲子園での大活躍は本当に素晴らしく全国の人たちを大きな感動に包みました。一方でスキー部OBの私は少し嫉妬心を持ちました。全国準優勝の金農に対し花高スキー部は男子が一度、女子は四度も総合優勝を果たしており、「成績は花高の方が上なのに」と思つてしまつたからです。メジャースポーツの野球とマイナー競技のスキーでは扱いが違うのは当然の事と理解はしているのですがやはりちよつぱり悔しいです。

スキーで育てられた私は、現在大会運営のお手伝いをしていきます。先輩たちからは「大会運営でも選手を育てられる。」と教えて頂きました。「インターハイは地元中学生の目標となつて強い選手の出現につながる。野球の甲子園に匹敵する会場作りと確実な競技運営で沢山の全国大会を呼ぼう。」とのアドバイスでした。今冬花輪スキー場でのインターハイは八回目を数え全国最多開催会場となっています。

この会報が発行される頃にはそのインターハイが終了し、きっと複数名が日本一をつかみ取り、また入賞を果たし、初の男女アベック総合優勝を果たしてくれているものと念願しています。

卒業生(新会員)への思い

六年前の札幌インターハイで念願だった初の男子総合優勝を果たした時、当時の一関校長先生に「ジャンプは、学校が終わつて三十分後には一年中飛べる世界でも有数の環境にある。クロカンもわかり。日本一になるのも当然ですね。」とお話しさせて頂いたところ「日本一はたとえ力を持っていてもたとしてもすべての菌車が噛み

合わなければつかみ取ることはできない。大森先生はじめ指導者達はもちろん、同窓会・部活動後援会・PTAや教職員、そして地域の皆さん、みんなが日本一だから総合優勝を果たせた。私は本当にそう思っている。」とお話し頂きました。

こんな日本一素敵な母校を私もとても誇りに思います。これから花高OBの誇りをもって地域に貢献していきたいと思つていきます。

齋藤 喜 季 (59期)

私は、花輪高校を卒業して働き始めて十一年が経ちました。高校時代は部活を中心に生活を送つていたことを思い出します。そして、卒業ぎりぎりまで就職するか大学進学するか悩んだのを覚えて

地元に残りたい気持ちと就職が先に決まつたこともあり就職を選びました。

います。結果的には就職を選んだわけですが、今でも大学を選んでいけば違う人生・道が開けていたかなつと思ふ時があります。しかし、就職を選んだから後悔して

今は、仕事を頑張りがら、休みの日は物作りや登山などを趣味にして生活しています。就職を通じて、たくさんの人と出会い、話すことができ、人として日々成長させてもらっています。最愛の人との出会いもその一つです。

選んでいけばその道」がと、どちらを選んでもそれぞれの道があったと思うからです。

大学は電子や機械工学などの物作りに興味があり、悩みましたが、

これからたくさんの人と出会いがあり、そして、たくさん人の選択する道がありますが、就職するにしても、進学するにしても、夢を追うのも、どれを選んだとしても自分が選んだ道を信じて突き進んでください。

卒業し、今思うこと

山口 聡一郎 (59期)

私は平成十九年三月に花輪高校を卒業し、早十二年が過ぎようとしています。私の入学時は現在の校舎が完成したばかりで、体育館などは入学してから完成となりました。新築の校舎で学んだ三年間が懐かしく感じられます。思い返すと高校生活は勉強、部活動などであつたという間に過ぎ去つた三年間でした。しかし高校生活で学んだことや経験したことが今となっては、とても大切なものであつたと実感しています。

高校卒業後は地元を離れていましたが、就職を機に秋田に戻り、転勤等を経て今は鹿角市で生活しています。生まれ育つた地元で暮らすことができるとても充実した日々を過ごしています。私は生まれ育つたこの鹿角が大好きで、地域の発展のためになるような仕事をしたいと思つていました。今の仕事はそれができる仕事であり、誇りをもって日々働いています。在校生のみなさん、卒業生のみなさん、進路や就職についてはとても考え、悩むと思いますが、ぜひ後悔の無いようにじっくり考え、夢を叶えていただきたいと思います。

私は一度地元を離れたことにより、外から鹿角を見るこ

とができました。その中で、住んでいた時には気づかなかった地元の良さが見えてきました。それは地域の人々のつながりが強く、とても温かみのある人が多いということです。私も地域のお祭りや行事等にも参加していますが、様々な人と交流できてとても楽しいです。すし、勉強になることも多いです。今後は今以上に少子高齢化が進み、地域の行事等が続いていくのが困難になっていくかもしれませんが、自分も積極的に参加し、次の世代に繋げていきたいと感じています。

最後に、みなさんも伝統ある花輪高校の卒業生として誇りをもつていただきたいと思います。そして、多方面で活躍することをお祈りいたします。



集落の綱引き行事に参加 (中央)

校訓から学んだこと

木村 匠 (67期)



「誠実、友和、創造、英気」の花高精神が様々な場面で今の私を支えています。

高校を卒業後、鹿角広域行政組合消防署へ消防士として勤めることとなり、今年度で四年目となりました。現在、火災や救急、救助など様々な現場で地域住民を守る一員として活動しています。また近年では未曾有の災害が多発する中その災害に対応するべく、日々勉強、訓練に奮闘する毎日です。

仕事を始めてから四年が経ちますがその中で大切だと感じたことが冒頭に述べた花輪高校の校訓である「誠実、友和、創造、英気」の精神でした。「誠実」は字の通り誠心誠意をもって仕事に向かうこと。要するに手抜きは厳禁だということ。「友和」は職場の上司、同僚、後輩との協調性をもって仕事に向かうこと。周りの環境に助けられながら時には助け合い、仕事は上手くいくんだと実感しました。「創造」は日々進歩を求め勉強すること。高校時代の私はこの勉強がいつ役立つのかが分から

なく、形式的なものとしか思っていないせいでしたが、仕事を始めてからはこの勉強はどの分野で必要なのかというのが分かるようになり、自ら進んで勉強するようになりました。「英気」はやる気を持って仕事に向かうこと。やる気や志が無くてはやりがいは見つけられないと実感しました。

この校訓を覚えていたからこそ、私は仕事の中で色々と気付くことができ成長できたと感じています。卒業を迎える皆さんもこの校訓、そして母校である花輪高校を誇りに思いこれからの人生を歩んで欲しいと思います。花輪高校で学んだことが人生の糧となり、卒業後も様々な場面で皆さんが活躍することを願っています。

旅立つ君へ

大森 依志樹 (64期)

ご卒業おめでとうございます。進学する人、就職する人、それぞれ進む道は違っていると思います。少なからず自分が興味を持ち、考え決めた道だと思えます。これから先はもっと大事な判断や決め事、人生の節目として決断しなければならぬ場面が幾度となく訪れます。

目標達成の為、紆余曲折はつきものです。やると決めたら、どんなに忙しくても、数分でもその為に毎日時間を使って下さい。必ず

自分が思い描く未来が待っているはず。一生懸命取り組んだ事は必ず自分の糧になり人生を豊かにしてくれます。

最後に判断するのは自分です。悔いのない人生にするために、悩んだり、迷ったら、とりあえず挑戦してみてください。必ずそれが自分の自信に繋がります。常に周りに感謝の気持ち忘れず、成長し続けて下さい。これからの皆さんのご活躍に期待しております。豊かな未来のために今を大切に、自分に負けない強い心を持って歩んでください。

シャッターチャンスをありがとう

佐藤 (兎澤) 澄果 (46期)

花輪高等学校同窓会第七十一期生となる皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私はトザワ写真室のカメラマンとして、母校花輪高等学校の卒業アルバム製作に携わらせて頂いております。この原稿を書いている一月中旬は、まさに卒業アルバム編集の最終段階。皆さんの高校生生活を写真で振り返っているところです。

運動会、花高祭、強歩大会、球技大会。どの行事も三年生が中心となり、おおいに盛り上がりましたね。みなさんの笑顔のおかげで

最高のシャッターチャンスがたくさんありました。そして各行事の準備や部活動、日常生活の中で、皆さんの一生懸命な姿に感動とパワーをいっぱい頂きました。ありがとうございます。

私は花輪高校を卒業後、上京し写真の学校に入学しました。新しい生活にワクワクする気持ちも大きかったのですが、親元を離れての生活や誰も知っている人が居ない中で人間関係の構築に辛さや孤独を感じたこともありました。そんな時、気持ちを支えてくれたのは高校生活の思い出です。「先生が教えてくれたこと、皆で一緒に笑ったこと。あの宝物のような日々があるから私は大丈夫、頑張れる。」そう思っていました。

過去を振り返ってばかりではいけない、前に進むことがむしろ必要なのではないか、忙い時期もあると思います。忙しい毎日を送る中で、ふと懐かしい気持ちになり卒業アルバムを開いたときに、学校の空気や教室に吹く風を思い出せるような写真を残したいと願いを込めてシャッターを切っています。十年後、二十年後の皆さんにも笑顔が届けたいな！カメラマンとして皆さんにたくさんのお礼を申し上げます。新生活へのエールを送ります。いつでも応援しています！

インターハイ スナックハイ



女子五キロフリー 二位 本田(左)と四位 田中



女子純飛躍(公開競技) 第三位 工藤

感動をありがとう！
女子総合二連覇

第六十八回全国高校スキー大会が、地元花輪スキー場を会場に四年ぶり八回目として開かれた。女子は距離陣の活躍、とくにリレーの同タイム二位などで、二年連続の総合優勝となった。

最終日のリレー応援には、全校生徒の声援と地元住民でおいに盛り上がり、総合二連覇に花を添えました。

インターハイ出場生徒を激励

一月三十日、同窓会井上高廣会長より、全国高校スキー大会に出場される、生徒二十一名、指導者四名を激励するために激励金を贈り、地元で開催される大会での健闘と活躍に期待を寄せました。

第六十八回全国高校スキー大会

花輪スキー場 二月八～十二日

男子

複合 第六位 木村 幸大
リレー 第九位 進藤 洸太、横山 開世、
畠山 侑也、木村 幸大

女子

総合 優勝 (二年連続・五回目)
五キロ フリール
第二位 本田 千佳
第四位 田中 星那
五キロ クラシカル
第二位 田中 星那
第三位 本田 千佳
リレー (一位と同タイム)

純飛躍(公開競技)
第三位 工藤 稀凜
田中 星那、黒澤 南帆
本田 千佳



2走の黒澤からアンカーの本田へ



女子五キロクラシカル
二位 田中 星、三位 本田 千佳



ゴール直後のリレー
二位 田中 星、三位 本田 千佳



リレーゴール直後 健闘をたたえる

デジタル表示板

1	1 48:38.5
2	3 48:38.5
3	5 48:47.3
4	2 49:01.0

一位・二位 同タイム
の電光掲示板

スキー一色の三年間

安保(村木) 真紀子(49期)

私の三年間はまさに部活動のスキー一色の日々でした。現在の花輪スキー場ではインターハイや国体が決まっていたので、スキーでの結果を残すために、校長先生をはじめ、学校の先生方の理解や協力があり、最高の環境の中で、同じ志

に立っています。結果を残す事は重要ですが、やってきた過程も重要であると、私は思っています。今では、スキー大会の競技役員として花高スキー部の応援、スキーの楽しさを子供たちへ伝える地域のコーチをしています。自分の子供がスキー大会へ出場するようにもなり、親として支える大変さも感じています。

最後になりましたが、二月に地元花輪でインターハイが行われます。スキーだけではなく、長い歴史を持つ花輪高校のよき伝統をこれからも着実に受け継ぎ、さらにすばらしい伝統を作り上げ、期待される学校であり続けて欲しいと願っております。

第71期クラス幹事

平成三十年度卒業生の中から同窓会の各クラス幹事が決まりました。今後ともよろしくお願いたします。

A組	安保 祐里	中村 沙織
B組	阿部 拓海	○杉江 加織
C組	齋藤 悠輝	田端 真歩
D組	伊藤遼太郎	○阿部 由実

○印は学年代表幹事

～母校を思い出して～

平成最後の卒業生は第七十一期生ということですが、一八、六三八名の同窓会員となります。当然ながらすでに物故者となられた方たちも多くおられることでしょう。それでも、本人および家族とかを含めると、花高に想いを寄せる人たちはかなりになります。高校時代がそんなに楽しいものではなく、卒業してからも同窓であることを考えたくないという方も確かにおりますが、同じ校舎での三年間という高校生生活、しかも思春期の多感な時期になにもないということはないのかと思っております。



副会長 神田 昭治(20期)

卒業してしばらくしてから突然、同窓であることに驚くような出会いもあります。同期の仲間だけに限らず、先輩や後輩たち、恩師ら教職員、または他校のライバルたち、あるいは校舎とその周りの四季の風景など懐かしさを感じるものです。今回の会報では、そんな想いを寄せてくれたものと、本当に感謝しております。